

お茶の水女子大学での1学期

同徳女子大学校

ユン・スギョン

お茶の水女子大学での交換留学が終わってしまうなんて、まだ実感がわきません。日本に入国した9月末から今までが、本当にあっという間に感じています。一学期は短いといえば短い時間なのですが、今振り返ってみると日本に来る前と比べてかなり成長した気がします。日本語を専攻していたわけではなかったので、生まれて初めて日本語でレポートを書いたり、日本語で発表したり、日本人学生さんたちとグループ活動をしてみたり、貴重な経験をすることができました。学期が始まったころには日本語で授業を受けるのが難しく、外国生活に慣れていないということもあり、大変だと思った時もありましたが、いろんな経験を重ねて成長できたと思います。特に、専攻授業を日本語で受けたのがとても貴重な経験でした。

経済学通論2の授業では、日本の経済を日本人の先生の視点から説明していただきました。雇用システムを含め、日本の物価上昇率には世界的な流れとは異なる傾向が見られるため、その差を現地で詳しく学ぶことができ、興味深かったです。

また、家政経済学概論の授業では、ジェンダー論と経済学を統合的に考えてみる事ができ、日本の家庭内の消費統計資料を分析する課題をしながら家政経済



に関して詳しく学ぶことができました。専門科目の課題は私にとってチャレンジだと思いましたが、外国語で自分が好きな分野を勉強することが本当に楽しかったです。

11月はお茶の水女子大学の学園祭に参加して日本の学園祭を楽しめ、東京大学の学園祭も行って韓国との学園祭とは違う雰囲気を楽しめました。

2学期は季節の変化をよく感じられる時期で、青かった木が黄色く染まって、葉が落ちる日本の景色をすべて見る事ができてよかったです。

また、ハロウィン、クリスマス、年明けなどの特別なイベントを外国で過ごせて、大事な経験をした気がしてありがたい気持ちでした。

12月には一か月間ずっとクリスマスの気分で、六本木や日比谷のクリスマスマーケットに行き、当日には寮のキッチンで留学生みんなとクッキーを焼いてクリスマスのパーティーをしながら幸せな時間を過ごしました。



まだ2か月ほど残っている日本での生活をもっと大事に過ごすつもりです。学期中には授業で旅行にあまり行けなかったのですが、これからは関西地方と沖縄などを旅行するつもりです。ありがたいことに誕生日も日本で過ごせるようになったので、当日はディズニーランドで過ごす予定です。これからも色んな思い出を沢山作って、幸せな留学生活だったと記憶に残るようにしたいです。

日本で過ごした半年は私の人生で一番記憶に残る半年だと言っても過言ではありません。お茶の水女子大学での授業は大体学生みんなと一緒に授業を作っていく感じでした。色んな分野の科目でグループ活動が行われてたくさん日本人学生とも交流できたため、グローバルな視野を持つことができ、とても嬉しかったです。

学期が始まったころ、講義室の位置が分からなくて、何度も道に迷ってしまい、何度も校内の学生さんに道を聞きましたが、いつも優しく教えてくれてうれしかったです。そして授業内の同じグループのメンバーさんたちも外国人の私が授業内容を理解しているのか色々気を使ってくださって本当にありがたい気持ちです。お茶の水女子大学に留学に来てよかったと思う瞬間ばかりでした。

そして、私の指導教官である森山先生、いつも色々気遣ってくださった萩原先生と西坂先生、専攻授業を受けさせていただいた松下先生と斉藤先生に心から感謝しています。本当にありがとうございました。